

“半端でなく”熱い「四季」

ハイドンの「四季」を聴いたことがありますか？「天地創造」と共に晩年の2大傑作と称されながら、ハイドン・イヤーといえども、「天地～」に比べて実演の少ないのがこのオラトリオ。それが12月、東京ユニバーサル・フィルの定期演奏会で取り上げられる。同楽団は、読売日響などで活躍した斯界の重鎮・三石精一を音楽監督&常任指揮者として1997年に設立。以来、正統派の名曲に十分な練習を重ねて、質の高い心のこもった自主公演を続け、「楽員の半端でない思い入れ」が聴衆の感動を呼んでいる、ひと味違ったブ

口集団だ。2007年のガラコンサートでは、東京芸術劇場における邦人オーケストラとしての最高入場者数を記録するなど、その支持も「半端でなく」熱い。今回は、ソリストにソプラノの佐々木典子、テノールの経種廉彦、バスの久保和範といった二期会の実力派歌手を揃え、自前の合唱団も参加。農民の生活を通じた自然&人間賛歌たる、このハイドン最後の大作を、感動的にうたい上げる。 文:柴田克彦

★12月5日(土)・東京芸術劇場 ●発売中
園ユニフィルチケットセンター03-3974-6557
<http://www.mitsuishiseiichi-uniphil.com/>



三石精一



佐々木典子



経種廉彦



久保和範